

第9回「内航船の日」(7月15日) 未来へ向かっているのではない。 未来を作っている、

内航海運新聞(令和6年7月8日号)での記事を紹介いたします。 以下転載

第9回「内航船の日」(7月15日) 未来へ向かっているのではない。 『未来を作っている』

全日本内航船員の会 事務局長 松見 準

7月15日、記念日「内航船の日」がやってきます。今年で9回目を迎えます。「内航船の日」は最初、2015年にネットの中に生まれました。SNSの誕生によって、洋上の船員たちと陸の一般の人たちとの間に接点生まれ、内航海運に興味を持ってくれた方々の内航海運を応援する思いによって日本記念日協会の正式な認定にこぎ着けています。

どうして「応援」から始まったのか。
それはネットで「内航船の日」を初めに
提唱した絵本作家、谷川夏樹さんのツ



イトから始まっているからでしょう。当時、谷川さんは次回作の絵本のために内航船で乗船取材をしていました。内航現場の状況を知った彼は憤っていました。こんなに頑張って日本の物流を支えている人がいることを誰も知らない。しかも深刻な人手不足らしい。もっと知られてほしい。

彼はTwitter(ツイッター、現X(エックス))を使って「7月15日を、715(ナイコ)。内航船の日と呼びませんか!」と発信します。共感する人たちの思いが全国に広がっていき、その交流に応える船員も出てきました。こうして「内航船の日」は内航海運を応援する思いを膨らませていったのでした。



3年後、谷川さんの絵本「かもつせんのいちにち」が完成、発売されました。内航海運を応援する思いが詰まった内航船の絵本は、全国各地で大量購入され、地域で図書館や学校に寄贈する動きも起きました。どんな応援ができるのかを探していた人がたくさんいたのです。船処の船主団体が大量に購入し、自治体に寄贈した報道もありました。

どうして、多くの人たちが内航海運に魅力を感じ

てくれたのでしょう。今よりもさらに内航海運が誰にも知られていない時代だったので、当時のツイッター内の船員たちが真剣にPRしていたことも非常に重要な要因ですが、内航海運自体に本当に魅力がなければ、このような広がりにはならなかったはずです。

内航航路は、全国津々浦々各地域で歴史とともに広く張り巡らされています。どこに住んでいても誰でもが地域の航路をイメージできます。次第に物流についてイメージするようになると、日常生活に直接つながっていることを感じます。船員不足問題やカポタージュ政策の意味も、島国に住む者の「運命共同体的」な課題になっていきます。「内航船の日」は、島国で暮らすことやわれわれの価値観、ライフスタイルにも関わるような魅力を内包しているのです。

「内航船の日」は市民社会から内航海運産業に贈られた記念日です。こんなにうれしい記念日はないでしょう。毎年、記念日当日にはSNSに「#内航船の日 おめでとう!」の発信が溢れます。ぜひ、業界関係者からも、こういった海洋文化社会の芽と一緒に盛り上げていただきたいと思います。

今年も記念日イベントとして「海から届ける写真展」を開催します。洋上にいる船員たちから「陸へ届けたい海」の写真を集め、東京の下町、墨田区の銭湯のロビーに展示します。毎年、大黒湯で開催していましたが、今年はすぐ近所の「さくら湯」での開催になりました。始まって9年、地域密着の銭湯ですので、住民の中には子供の頃から「内航船」を知っている方もおられます。銭湯には老若男女さまざまな人が訪れ、海運と全く縁のない人たちが「内航海運」に出会います。ほとんどは「内航海運」という言葉を初めて知ったという方です。写真展を続けてきてわかったのは、船員自らが撮影した写真作品に見入った後には、誰でもが内航海運の応援団になってくれるということです。下町の銭湯で湯船につかり、軽く「お船見」いかがでしょうか。

今年の写真展のテーマは「未来へ向かってるのではない。未来を作っている」。

内航海運は新たな未来を作り始めているところだと感じます。船員の労働時間の規制強化など、業界的には誰でもが「対応困難」と感じるほどの厳しい法令改正を、ようやく事業継続できる形が見えてきたといえるまできた、対応中の感じですが、「法令遵守」は当然のことですので誰にも褒めてもらえませんが、現在、内航海運業界が取り組んでいる努力はもっともっと褒められてほしい。そして、こうして乗り越えてきた経験が、産業の誇りや文化になっていくことを望みます。

これまで内航海運は「船を、荷主や荷物に合わせていく」という努力を重ねてきました。結局、そのしわ寄せが現場に集中し、その努力は限界に達しました。「法令遵守は不可



避」と判断した内航海運のこれからの努力は、島国の生活者、市民社会からの理解と信頼関係によって発展していくことになります。

良くも悪くもこれまでの内航海運の状況は私たちが作ってきた未来。今一度、本当は何が問題だったのか、どこからが問題だったのか、そして私たちは何を失ったのかを丁寧に検証する必要があるのではないのでしょうか。船員と内航事業者との関係、内航事業者とオペレーターとの関係、オペレーターと荷主との関係。反省を活かしながら、社会性のある強靱な産業の未来を作っていけることを願っています。

「内航船の日」9回目を記念して、今年も記念日手ぬぐいを製作しました。今年の絵柄は実証試験船「えくすくうる」です。

日本のカーボンニュートラルの社会実現に向けて、安全にCO₂を運ぶための実証試験が行われています。陸の研究機関の人たちとの交流の中で、内航船の社会性や船員の知見について評価されていくことにも期待しています。日本の未来を作っている内航船を迫力あるデザインで手ぬぐいにして、内航海運の社会的意義を広く社会に伝えとともに、船員の働き甲斐にもつながればと思っております。(了)

「海から届ける写真展」開催概要

◇開催期間＝7月15日(月・祝)～31日(水)
※平日15時から24時まで、月曜日は定休(祝日の場合は営業し翌日休み) ◇開催場所＝「さくら湯」ロビー(東京都墨田区業平4-6-5) ※東京メトロ半蔵門線、東武伊勢崎線、都営浅草線、京成押上線「押上駅B1出口」より徒歩4分。東京スカイツリーより徒歩9分

◇入浴料＝大人520円、中学生420円、小学生200円、幼児100円(サウナ追加料金200円)

「内航船の日」記念日手ぬぐいを読者プレゼント!

全日本内航船員の会の松見準事務局長のご厚意により、「内航船の日」記念手ぬぐい(写真)を読者5名様にプレゼントします。この記念手ぬぐいは、毎年限定100本が販売され、すぐに完売するという大人気の一品です。

ご希望の方は、件名を「内航船の日・読者プレゼント」とし、①住所②氏名③連絡先(携帯電話番号等)④「内航船の日」に向けた応援メッセージ――を明記の上、Eメール(info@naikou.co.jp)までご応募ください。

応募締め切りは7月26日(金)。当選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

